

## 福祉のしゃべり場 報告

第12回 7月23日(土) 13:30~15:00

東京YWCA会館215室 参加者15名(内オンライン10名)

テーマ「なんでも話して聴きあおう

あなたが主役の福祉のしゃべり場」

「コロナ禍、施設の空気がピリピリして、寛容だったスタッフもそうでなくなっている。」

「不安なことをしゃべり場で聞いていただき心が楽になった。」

「ピリピリしないようにゆっくりの声掛けや動作を意識している。」

「親として子どもを見ると不安になることがあったが、子どもを認め向き合ってくれる保育士と出会い安心した。」

第13回 11月12日(土) 13:30~15:00

東京YWCA会館215室 参加者7名(内オンライン4名)

テーマ「私の最近思うこと 日々の仕事でニヤッと

したこと ほっとしたこと」

「久しぶりにしゃべり場に参加して、学生時代一生懸命で、学ぶことを楽しんでた自分を思い出して懐かしい。」

「Yの卒業生の仕事に対する一貫した姿勢、利用者との向き合い方等素晴らしく誇りに思う。」

次回「第14回 福祉のしゃべり場」

2023年2月以降実施予定

日程が決まり次第HPにてお知らせいたします。

HPからお申し込みください。

一年間の感謝と共にクリスマスをお祝い申し上げます。

「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」

マタイによる福音書 25章 40節

キリスト教に触れて間もなく、この言葉に触れたことを思い出します。

「小さい者」は子どもだけでなく社会から排除されがちな人々であることを、コロナによる社会の分断の中で改めて思います。

小さな力かも知れませんが、社会の中で「闘い」続ける思いを持ち続けます。

「ファイト！闘う君の唄を闘わない奴らが笑うだろう。ファイト！冷たい水の中をふるえながらのぼってゆけ」(中島みゆき)

理事長 田島 誠一

### 会費・寄付金等振込先

年会費：正会員 3,000円/年 賛助会員 一口 10,000円/年

団体会員 20,000円/年

◆株式会社 ゆうちょ銀行 記号 10170 番号 80995501

◆三菱UFJ銀行 神田支店 口座番号 普通預金0138637

口座名義 特定非営利活動法人

東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター

発行所 特定非営利活動法人

東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター

発行人：石井須美子 編集人：長尾恵理子 大庭 幸

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台一丁目8番11号

東京YWCA会館216室

TEL・FAX 03-6273-7134

HP <http://ywca-hssc.org/> [東京YWCAヒューマン] で検索

2022年12月26日~2023年1月4日

冬季休業いたします。



# 特定非営利活動法人

# 東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター

## 会報

見守り

支え

伝え合う

私たちは、福祉・介護の仕事のゆたかさを広げる活動を推進します

25号  
2022年12月

### 理事会のご報告

特定非営利活動法人  
東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター理事長 田島 誠一

11月16日(水)、第34回東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター理事会を開催しました。今年度上半期の事業報告・会計実績報告を受け意見交換をしました。

2022年度上半期も、コロナ禍の影響を受け厳しい結果となりました。講師派遣研修事業においては、クラスターの発生等により、多くの法人・施設の職員育成に影響が出ました。保育士キャリアアップ研修も、コロナ禍の影響に加え、受講対象者減少、研修実施機関増加、オンライン研修拡大等の影響を受け、当法人の受講希望者数が大きく落ち込みました。

9月以後は、新規法人契約や、中断していた法人施設の研修も回復してきました。キャリアアップ研修も開講科目の組み直しや広報の見直しをおこなった結果、回復の傾向を示すことができました。しかし、当初予算に比べ収入が減少し、補正予算を立て理事会で審議いただき、補正予算の承認を得ることができました。

「福祉のしゃべり場」は通算13回開催し定着してきました。今は対面とオンラインで行っていますが、皆が対面で集える日が早期に訪れることを願っています。

2024年の介護保険改訂に向け、自己負担の引き上げや要介護1-2の総合事業への移行、人員配置基準の「緩和」などに向けた検討が始まり、介護・福祉経営や働く者への逆風が予想される事態が進行しつつあります。苦しい時にあっても、人財育成を進めていくことが、この仕事を支える大きな要素であることを確信し、法人の諸事業に邁進していきたいと存じます。



# 特集 新しい形の研修が始まりました～社会福祉法人の中長期ビジョンを描くための施設長研修～ 社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園

東京 YWCA ヒューマンサービスサポートセンター理事長・研修講師 田島 誠一

2022年6月から、社会福祉法人牧ノ原やまばと学園での施設長研修が始まっています。  
牧ノ原やまばと学園は、1970年(昭和45年)重い知的障がい児の施設を開設することから始まりました。創設者長沢巖牧師は「私たちは世の中で最も差別された人々を中心として、地域の人々を含めた『共同体』を形成していくことを目指している」と、キリスト教精神を土台にしつつ他者との会話を重んじ法人の礎を築かれました。

時代の変化、地域の要請に応え、現在法人は18か所の障害者施設と10か所の高齢者施設を運営し、職員数は、470名です。

法人理事である佐々木炎牧師(NPO 法人ホッとスペース中原理事長)は、この研修の狙いについて次のように述べています。

「法人は52年目を迎え、障害・高齢者支援を中心として多くの事業所を有しています。『共に生きる』を経営理念としてきましたが、管理職が具現化することに戸惑っていました。そこで施設経営に定評のある田島誠一氏を講師として招聘を依頼しました。研修内容は、管理職自身が主体になって、社会福祉法人の在り方を学び、理念の具現化と地域共生社会に向けて中長期ビジョンを立てられるよう依頼しました。」

研修は、6月から毎月1回施設長全員が集まり、社会福祉法人の使命や原則を踏まえたうえで、全国社会福祉法人経営者協議会(経営協)の「アクションプラン2025」が示す行動指針(法人の取り組むべき14の実践課題)に沿って、法人事業の洗い直しと課題の明確化に取り組んでいます。毎回講師からのミニ講義のあと、発表グループの施設長さんたちによる担当課題についてのプレゼンテーションが行われます。忙しい仕事の合間を縫って準備し熱のこもった発表が毎回行われています。全体で討議する中で、サービスのあり方、法人ガバナンス、地域とのつながり…これまでを振り返り将来を見つめる意見が表明されています。まだ50年の法人事業の「棚卸」、課題の抽出の段階ですが、法人の持つ「底力」を発揮できる成果が得られことが期待されます。

東京 YWCA ヒューマンサービスサポートセンターが法人の中長期ビジョン策定の仕事を引き受けたのではなく、施設長研修の結果として中長期ビジョンができあがるのです。当法人はプロセスに関わり、次代を支える方々の成長を支えられようと願い、静岡に通っています。

## 『受講を通して思う事や変化など』 コミュニティセンターぶどうの木 施設長 神谷 美代枝

重いテーマに達成できないと思い込んでいましたが、グループワークは自由で楽しく、課題も仲間となら達成可能だと前向きに考えられました。これまで、田島先生の講義やコメント、あるべき姿を明確にし、現実の問題と達成根拠を説明いただきより理解することができました。何よりも師や仲間を信頼できたこと、遅れた時代感覚に陥らず事業を継続していく管理者としての使命に気づかされ、仲間と一緒に達成可能と思えました。

## 『受講を通して思う事や変化など』 やまばと希望寮・ワークセンターやまばと 施設長 田澤 岳大

最初は、月1の研修と聞き、「はぁ他の業務が…」と考えていました。しかし、田島先生の軽快なトークと近況や実体験を交えた講義でとても勉強になりました。前は1事業所で地域における福祉の充実を考えてきましたが、研修を重ねるにつれて、法人内の事業所を沢山巻き込み、地域と法人の福祉の充実をどのようにすれば良いか考える様になりました。長期ビジョンを見据えながら、今後は取り組んで行きたいと思います。

管理者研修「中長期計画策定」について  
社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園  
理事長 長澤 道子

「中長期計画策定」を学ぶことにしたのは、経営協がその重要性を伝えていたためで、管理者たる者は一度はこれを学んだほうがよいと考えたからでした。当初は軽く考えていましたが、最終的には、当法人の活動52年間の棚卸しも意図する大規模な研修になり、毎月1回(4時間)、2年間学ぶことに。講義は田島先生、時々の進行役は佐々木先生です。この11月で6回目を迎え、2回目からは受講生たちも発表開始。嬉々として熱心に取り組んでいます。田島先生のお話は、体験談も含め多岐にわたりますが、一貫して伝わってくるのは、小手先ではなく、大事なことを大事にする、筋の通った姿勢です。受講生にとっても寛大ですが、看過できない事柄については、ピシッと明確に指摘するので、管理者たちは改善しようと動き始めます。これが、挑戦するリーダー育成にも繋がるのだろうと期待しています。



右から4人目長澤理事長、田島講師、佐々木理事

## 『研修担当者としてのやりがいと苦労』 社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園 聖ルカホーム 施設長 大石 幸

研修開催にあたり、先生方と多くの時間をかけ研修の目的や進め方などについて話し合うことができました。先生は、当法人の歴史や課題などを踏まえた上で管理者が今学ぶべきことを明確にしてくださいました。実際の研修会では、現状を知り多くの気づきや新しい視点を獲得することができると感じます。担当者として、最初に掲げた目的が達成される事、受講者が法人の福祉活動に誇りを持って進んでいける事を願っています。

